

青陵図書館だより 1月号



令和6年1月11日

青陵中学校
司書 青木洋子



青陵中学校図書館
の本を探す

年の初めの運だめし！

開運！ブックじ

開催期間 1/9~1/31



- *本を借りると「ブックじ」をひくことができます。
- *1日1回まで期間中は何回でもひけます。(毎日でも！)
- *ブックじに書かれている「おすすめ本」を借りた方にはお年賀をさしあげます。
(お年賀とは新年のあいさつの気持ちをこめた贈り物のことです)
- *凶や大凶もようしゃなく入れています。
おみくじの結果を気にしすぎてしまう人にはおすすめしません。
- *3年生限定・希望者にお守りをさしあげます。
(欲しい人は司書に声をかけてください。)

新展示 「はじめての」 デビュー作特集

『永遠の0』『リアル鬼ごっこ』『桐島、部活やめるってよ』『木曜日にはココアを』…どれも青陵中生に人気の作品です。これら名作の共通点は「デビュー作」であること。最初からこんな名作を書けるなんてすごい！のか、すごい作品を書いたからこそデビューできたのか…？「デビュー作にはその作家のすべてがある」とはデビュー作について語るによく使われる言葉で、なるほどたしかに！と、驚くほど傑作揃いの展示となりました。ぜひ見に来てください。



今月の新着図書



分類記号	書名	著編者	出版者
221 イ	一冊でわかる韓国史	六反田豊	河出書房新社
222 イ	一冊でわかる中国史	岡本隆司	河出書房新社
233 イ	一冊でわかるイギリス史	小林照夫	河出書房新社
234 セ	一冊でわかるドイツ史	関眞興	河出書房新社
235 イ	一冊でわかるフランス史	福井憲彦	河出書房新社
236 イ	一冊でわかるスペイン史	永田智成ほか	河出書房新社
237 イ	一冊でわかるイタリア史	北原敦	河出書房新社
238 セ	一冊でわかるロシア史	関眞興	河出書房新社
253 セ	一冊でわかるアメリカ史	関眞興	河出書房新社
491 ハ	よくわかるがんの話 1~3	林和彦	保育社
596 ア	世界の郷土料理事典	青木ゆり子	誠文堂新光社
795 タ	大人が読むこどもの碁	丹野憲一	ホビージャパン
796 チ	チェスを初めてやる人の本	小島慎也	つちや書店
801 カ	なぜ、おかしな名前はパピブペボが多いのか?	川原繁人	ディスカヴァー・トゥエンティワン
908 コ	5分後に意外な結末 ex-インディゴを乗せた旅の果て	桃戸ハル	Gakken
913 ア	午後のチャイムが鳴るまでは	阿津川辰海	実業之日本社
913 ア	浜村渚の計算ノート 10 さつめ	青柳碧人	講談社
913 イ	猫を処方いたします。	石田祥	PHP 研究所
913 オ	27000冊ガーデン	大崎梢	双葉社
913 カ	手で見るぼくの世界は	檜崎茜	くもん出版
913 カ	ソードアート・オンライン	川原礫	KADOKAWA
913 カ	終わりのセラフ 7	鏡貴也	講談社
913 サ	いつの空にも星が出ていた	佐藤多佳子	講談社
913 シ	さよならごはんを今夜も君と	汐見夏衛	幻冬舎
913 チ	吸血鬼の原罪 (天久鷹央の事件カルテ)	知念実希人	実業之日本社
913 ヒ	火狩りの王 2 影ノ火	日向理恵子	KADOKAWA
913 リ	レゾンデートルの誓い	樫一志	ドワンゴ
914 ク	続 窓ぎわのトットちゃん	黒柳徹子	講談社

国ぐにの歴史を通して、その国がいったいどんな国なのかをていねいに解説。図表やイラスト、興味深いエピソードが豊富。「そのころ、日本では？」のミニコラムにも注目。

がんはどうしてできるのか、がんの見つけ方や予防方法、正しいがん情報の集め方、治療法や生活など、がん患者のリアルな声をまじえながら解説。知ることが力になる！

言語学・音声学って何？この本では、怪獣やポケモン、プリキュアの名前を教材として分析、考察する。

学校司書と書店員が本にまつわる事件を解決！謎解きもレファレンスのうち？！

視覚支援学校の生徒の話。目で見る世界と手で見る世界。知らない世界を知ろうとすることの大切さ。

登場人物全員、熱烈な横浜ベイスターズファン。夢中で応援する人、それぞれの物語。

前作から42年、トットちゃんが帰ってきた。戦争中の疎開やNHK入社、ニューヨーク留学などハラハラ、ワクワクなエピソード。トットちゃんのお母さまが素敵。

PICK UP!

PICK UP!

書影はすべて出版社の使用許諾済

司書イチオシ本

午後のチャイムが鳴るまでは



文化祭を間近にひかえたある高校、「9月9日の昼休み」に起こる数々の事件。こっそり抜け出してラーメン屋へ行くこうとする者、消しゴムポーカーにはまる男子たち、占い部の推理…など5つの事件を描いた連作短編集。すべて昼休みの65分間に起き、解決される。そして最終話では17年前におきた生徒失踪事件とともに、バラバラだったすべての事件が繋がる。伏線回収、叙述トリック、名探偵…とミステリの魅力たっぷりな上に、周囲や先生の目をかいくぐって、バカバカしい何かを全力でやりとげようとする情熱はまさに「こいつら、最高すぎる。」誰も死なない、悪人も出てこない最高の学園ミステリ。

